

11

01 November
Disneyファン11月号
80円 [毎月22日発売]

パークからグッズ、アニメまで。夢と魔法のディズニー最新情報誌

Disney

FAN

パークチケット&
パークグッズプレゼント

月刊「Disneyファン」
**秋の定期購読
キャンペーン**

10月20日までにお申し込みの方に
ミッキー♥ミニ
ICカードきせかえシートプレゼント!



**ハロウィーンを
楽しみつくそう!**

Tokyo Disneyland

お待たせしました!
完全レポートです!

「Disney ハロウィーン」

Tokyo DisneySea

東京ディズニーシー 10thアニバーサリー

「Be Magical!」

「仮装ゲスト大紹介」

「ハロウィーングッズ特集」

スペシャルインタビュー「東京ディズニーシー 10周年クロニクル」

DISNEYFAN
ディズニーファン・ミーツ
METOO!

外山喜雄 & 恵子

ジャズプレイヤー

TOYAMA YOSHIO
& KEIKO

ディズニーに
出会わなかったら
ジャズをやっていなかった
かもしれない

東京ディズニーランドオープン当時から2006年3月まで実に23年間、パークで演奏していた外山喜雄さんと恵子さんのバンド。1968年からニューオリンズで暮らした外山さん夫妻は、日本のデキシーランドジャズの草分け的存在。パーク以前に出会ったディズニーにジャズに導かれたという喜雄さんですが……。

『ダンボ』を見て、ジャズに目覚めました

僕がジャズに目覚めたのは、1950年代半ばの中学生のころでした。当時、アメリカからジャズを使ったたくさんの映画が入ってきて、ディズニーのアニメーションもその一つ。あのころは今のように入れ替え制ではなく、一度入ったら1日いられた。だから、1日に何回も見てね。

とくに好きだったのが『ダンボ』。中学2年のころ見たんだけど、カラスが「もし象が空を飛べたら」という歌を歌うシーンがあるじゃないですか。あれは、ビーバップというスタイルのジャズなんですね。子どものときはわかりませんでしたけど、のちにニューオリンズで暮らすようになって、あのカラスたちは、黒人のジャ

ズマンたちだったんだなあとわかりました。

ウォルトもアニメーターたちもジャズが大好きだったんじゃないかな。1968年から通算5年、ニューオリンズで暮らしていたころ、イギリスのバンドに加わってアメリカやヨーロッパを演奏旅行していたことがあるんです。ディズニーランドに招待されて、伝説のアニメーター、ナイン・オールド・メンの一人、ウォード・キンボールさんに会ったら、彼はトロンボーンの名手で、ジャズバンドをやっていたくらい。

『わんわん物語』では、ジャズ歌手のペギー・リーがベグという犬の声を担当して、歌も歌っている。「彼がトランプさ」という曲はとてもジャズっぽいし、ほかにも「ララルー」とか、「ベラ・ノッテ」とか、いい曲がたくさんある。

『101匹わんちゃん』の飼い主のロジャーはジャズミュージシャンなんだよね。妻のアニータに向かって、「ハニー、とてもいい曲ができた

よ」と言って聴かせるのはジャズ。「町のクルエラ」を聴いたときは、「なんてカッコいい曲なんだ」と思いました。『おしやれキャット』や『ジャングル・ブック』にもジャズの曲がたくさん出てくるしね。

僕、ディズニーを見てなかったら、ジャズをやっていなかったかもしれない。それぐらい影響を受けました。

68年には僕がとっても尊敬するジャズ・ミュージシャン、ルイ・アームストロングがディズニーソングを歌った「サッチモ・シングス・ディズニー」（サッチモは彼の愛称）というLPが制作されてね。これが最高なんです。サッチモが、あの独特のしわがれ声で「ハイ・ホー」とか「星に願いを」「チム・チム・チェリー」を歌っている。僕も真似をして、全部カバーしました。

なぜディズニーの歌が、何十年も歌い継がれて、演奏され続けているかという、ずっと先を見て、曲を作っているからだと思います。

東日本大震災では、パークのある舞浜も液状化でたいへんなことになったけど、パークはびくともしなかった。それはパークを建設するとき、「ここは来世紀も、その先も続いていくものだから、地盤も、次の次のずーっと先の世代までもつようにしないとダメだ」と頑丈にしたからだと言いました。目先の儲けとか、採算に惑わされない。音楽も本当にいいものを残そうとしている。そんなふうに感じます。

アメリカで初めてパークに行き、大感動!

ニューオリンズに行ったのは、どうしても本場のジャズに触れたかったから。大学ではニューオリンズ・ジャズ・クラブに入って、ジャズ漬けの毎日。恵子さんもそのクラブの部員でした。大学を卒業して、就職し、結婚したものの、ジャズへの思いが断ちがたく、2年で仕事をやめて夫婦でニューオリンズへ行きました。当時、ロスまでの飛行機代は片道で月給の10倍くらい。とても飛行機ではいけないので、ブラジル移民船に乗って、途中のロスで下船しました。ところが、車社会のアメリカ、バスや電車はなく、船を降りた人は、みな迎えの車に乗っていきます。僕ら2人、どこへ行くこともできず、途方に暮れました。

必死の思いで公衆電話を探し、日本のジャズ愛好団体からロスのニューオリンズ・ジャズ・クラブの会長さんを紹介してもらい、その会員の



↑東京ディズニーランド20周年記念で作られた外山さんがプロデュースしたCD「ストリート・オブ・ファンタジー」。

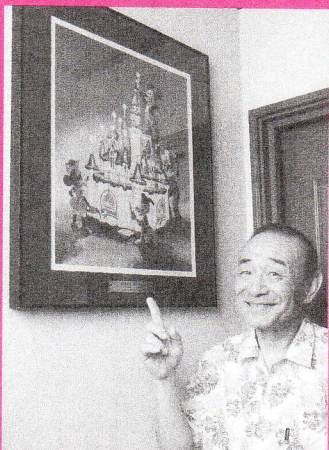
↑ジャズ風にアレンジしたディズニーの曲が収録された、外山喜雄&デキシー・セイントの「デキシー・マジック・ビビディ・バビディ・ブー」。

↑「スプラッシュ・マウンテン」ができたとき作られたCD「ジッパ・ディー・ドゥー・ダー」が「いいい」では喜雄さんも歌っている。

TOYAMA

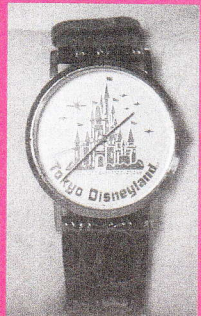


↑ジャズマンのフィギュアと一緒にミッキーとミニのフィギュアが飾られている外山家。

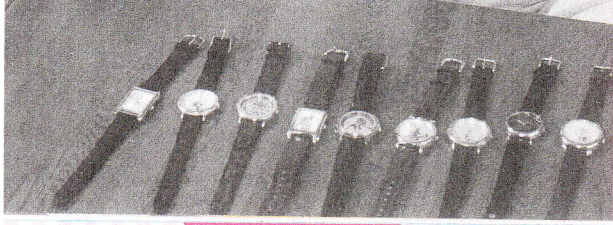


↑1985年にロスのパークのジャパンウィークに招待されて演奏したことも、そのときの記念にプレゼントされた絵。

←5周年、10周年などアニバーサリーの時計をはじめとした外山さんの時計コレクション。



←喜雄さんが腕にはめているのは、東京ディズニーランドがオープンしたときに発売されたもの。





→オープンから15年、パーリーバンドは「メリー・ポピンズ」に登場するボタンがたくさん服を着たデキシーランドジャズバンドとして活躍。



→お誕生日の子に傘を持ってもらい「ハッピーバースデートゥー」でお祝したことも。

パークで演奏するようになって、ジャズがさらに理解できた

方の家に泊めてもらえることになったんです。

その家の方が連れていってくれたのがアナハイムのディズニーランド。こんなところがあるのかと、びっくりしました。そのとき乗ったのは「イツ・ア・スモールワールド」と「カリブの海賊」と「ホーンテッドマンション」。今でもニューオーリンズに行くときは、アナハイムのパークに寄って、この3つには必ず乗ります。そのあとはジャズを聴く。昔は、サクソファイトイブといって、サキソフォンのバンドやラガタイムピアノが出ていたし、ニューオーリンズ・スクエアで、いつもジャズをやっていました。

パークにはしょっちゅういろいろなミュージシャンがきて、コンサートを開いているんです。僕が行ったときはライオネル・ハンブトンやバディ・リッチがやっていました。サッチモも1962年から5年間、パークの特別企画「ディキシーランド・イン・ディズニーランド」に出演していたことがあります。

アメリカのエンターテイナーにとって、パークに出演することは名誉なことなんです。エンターテイメントの質が高いし、なによりパークで演奏するのが楽しいんです。

パークのみんなを喜ばせるのは、最高に楽しかった

ニューオーリンズ暮らしを終えて、日本で演奏活動を始めました。ディズニーの曲もよく演奏していたら、それが縁で、これから開園するという東京ディズニーランドで演奏することになりました。それから23年、ディズニーには本当にいろいろなことを学ばせてもらいました。

最初はパーリーバンドという名前でファンタジーランドで、1998年から2006年までロイヤルストリート・シックスという名前でアドベンチャーランドの「カフェ・オーリンズ」の前でデキシーランドジャズを演奏しました。

ニューオーリンズでいちばん有名な場所が、ロイヤルストリートとセントピーターズという通りが交わったところ。「カフェ・オーリンズ」のある場所は、まさにそこをイメージしているんです。僕らがニューオーリンズでよく演奏していたのが、「カフェ・クリオール」。名前がよく似てるでしょう。ふしぎな因縁です。

パークのショーの監督には「すべてのエンタ

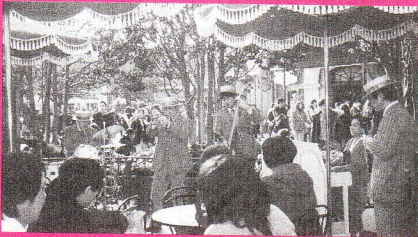
TOYAMA YOSHIO



↑ミッキーたちがパーリーバンドに参加したこともあった。



←ロイヤルストリート・シックスのみなさん。喜雄さんはトランペット、恵子さんはバンジョーを担当。



←「カフェ・オーリンズ」前で演奏中のロイヤルストリート・シックス。ファンもたくさん。



& KEIKO

ーテイメントは演技から始まる」ということを教えてもらいました。要するにジャズを演奏するのも演技が必要なんだ、疲れているときも、自分を奮い立たせて家族に会ったときのような笑顔でいなければダメだ、と。そう言われて、サッチモも実はお客様を楽しませるために、彼なりのスタイルで演奏していたということがわかりました。

ジャズはそもそもみんなを楽しませたり、踊ってもらうための音楽。ニューオーリンズでは、労働記念日などのパレードやお葬式にはジャズのバンドが演奏して、そのあとをみんなが踊りながらついて歩きます。聴いてるだけじゃない。楽器をもっていない人も参加するんです。

だから僕も、パーリーバンドではお誕生日の人に傘を持ってもらって、「ハッピーバースデートゥー」を演奏したり、楽しませる工夫をいろいろしました。今、パレードやショーにゲストが参加することがよくあるけれど、あれは日本のパークでは、僕が始めたものなんです。

小さな子からお年寄りまであらゆる世代の人に足を止めてもらって、心から楽しんでもらう。



↑パークの演奏に感謝をこめてスタッフから贈られた「魔法を解くカギ」。

←FAX送り状に描かれているのは、ピアノを弾く恵子さんとピアノに腰掛ける喜雄さん。まるでミッキーとミニーみたい。

それは本当に楽しい仕事でした。

アメリカの偉大なエンターテイナー、ウォルト・ディズニーとルイ・アームストロングにかかわる仕事ができただけは、本当に幸せなこと。これからパークでジャズコンサートが開けたら最高なんだけど。

プロフィール

1944年、東京生まれ。中学時代からジャズトランペットを始める。'68年、ピアノ・バンジョー奏者の恵子夫人とニューオーリンズへジャズ修行に。通算5年にわたり、ジャズを学ぶ。'75年、外山喜雄&デキシー・セイテツを結成。'83年から23年間、東京ディズニーランドで演奏する。現在、イクスピアリなどでライブ活動やコンサートを行っている。